

科目名	映像音楽制作研究 I ～VIII	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	2	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

様々なメディアで使われる映像に対し、適切な音楽がどのようなものであるのかを理解し、その音楽制作に必要な技術を身につけることを目標とします。

＝履修の条件と学習の方法＝

- 1 機材を大切に扱うこと。電源を付ける順番に注意すること。
- 2 コンピュータを使う関係上、授業に関係のない行為をしないこと。
- 3 ネット上で違法となる行為は絶対にしないこと。
- 4 欠席する場合は担当教員に伝わるようにすること。
- 5 課題は期限までに提出すること。

＝授業内容＝

基本的に個人レッスンとして行うが、必要と認めた場合は他学生が見学することを認める。学生の習熟度に応じて基礎的技術の習得から徐々に高度な技術へと進めていきます。MIDI による音楽制作を学びつつも、生楽器の扱いをコンピュータでのシミュレーションを活用して学び、スタジオでの録音に対応できるよう指導します。

1期 基本的な MIDI の扱い、DAW ソフトの扱い、また、必要であれば和声、対位法などの基礎的技術を学ぶ。

2期 基本的な MIDI の扱い、DAW ソフトの扱い、また、必要であれば和声、対位法などの基礎的技術を学ぶ。

3期 基礎的技術をより確実なものとしつつ、実際の音楽制作において、和声法や対位法をどのように活用するのかを学ぶ。

4期 基礎的技術をより確実なものとしつつ、実際の音楽制作において、和声法や対位法をどのように活用するのかを学ぶ。

5期 様々な形態の映像作品に対しての音楽のあり方を分析して、理解を深め、実際に MIDI をメインとした映像音楽を制作する。

6期 様々な形態の映像作品に対しての音楽のあり方を分析して、理解を深め、実際に MIDI をメインとした映像音楽を制作する。

7期 MIDI による音楽制作のみならず、生楽器をコンピュータでシミュレーションすることにより各楽器の特性などを理解しスタジオでの録音に備え、映像音楽を制作する総合的な技術を習得する。

8期 MIDI による音楽制作のみならず、生楽器をコンピュータでシミュレーションすることにより各楽器の特性などを理解しスタジオでの録音に備え、映像音楽を制作する総合的な技術を習得する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

各学年の規定に応じた楽曲の提出を行い、それらの作品を教員が審査する。
評価基準はクオリティ、研究度、工夫などを総合的に評価する。

=その他=

特になし（教員から指示が出る場合もある）